

	形式等	事項	年度	相手国	概要	ハイライト (特報、PRできる事項)	キーワード	ファンド (実施経費の財源)	開催日	参加人数(日本・海外)参加国数
(3)若手研究者の育成										
天文台		アジア学術セミナー(JASS: JSPS Asian Science Seminar)「JASS'05-大望遠鏡と中小型望遠鏡の連携観測による、宇宙のフロンティアの開拓」	17年度		すばる望遠鏡をアジア各国の若手研究者に紹介し、彼らの寄与に努めるとともに各国の天文学研究水準の相応に寄与する。	アジアの若手研究者が世界第一級の研究施設で体験する機会を提供する。	アジア、観測プロボージャー、望遠鏡間連携	日本学術振興会(アジア学術セミナー)	18.3.12～17	計59名 国内12名 国外47名(4ヶ国)
		東アジア若手天文学者会議(EAYAM)	17年度		将来の天文学を担う若手天文学者を中心とした研究交流及び東アジア地域での研究協力の将来像を模索することを目的とする。	東アジア地域で進みつつある研究協力を念頭に置き、星形成と電場天文学、恒星進化と光・赤外線天文学、星の惑星と高エネルギー天文学の3つのトピックスを取り上げた。	東アジア、研究協力、	井上科学振興財団(機構長裁量経費)、天文学振興財団、科学研究費補助金	18.2.13～18	計73名 国内25名 国外48名(3ヶ国)
		アジア電波天文冬の学校	18年度		東アジア中核天文台連合(EACOA)に基づく協力事業。	東アジアの主要な電波望遠鏡の連携活用を推進する。	EACOA、VLBI、コンソーシアム	運営費交付金(機構長裁量経費) 総合研究大学院大学、井上科学振興財団、天文学振興財団	19.1.22～26	計84名 国内34名 国外50名(13ヶ国)
		数値天体物理学に関するアジア冬の学校	17年度		総合研究大学院大学のアジア冬の学校で、数値天体物理学を対象分野として実施したものの。	多彩な講師をそろえ、多くの実習を組み込み、千葉大学大学院自然科学研究科との協力により実施。	東アジア、研究協力、	総合研究大学院大学	18.3.13～17	計41名 国内21名 国外20名(5ヶ国)
核融合		17年度 核融合研での若手研究者海外派遣	17年度		国際交流委員会派遣小委員会での所長の寄付金による派遣者を決定し、渡航費用を援助している。	申請期限を渡航日より1ヶ月半前とし、柔軟に対応している。	自助努力	寄付金		計11名
		17年度 アジア冬の学校(総研大)	17年度		総合研究大学院大学の特定教育研究経費に基づく「総研大アジア冬の学校」の一部として、核融合科学研究所で開催。	この教育講座には、中国、韓国、台湾の3カ国からの学生19名を含む43名の参加があり、プラズマ物理や数値シミュレーション等の講義・演習が行われた。		総研大経費	17.12.12～16	計43名 国内13名 国外19名(3ヶ国)
		17年度 機構長裁量経費(若手研究者育成)	17年度		3名が採択され海外派遣を伴う共同研究を実施した。	機構長のリーダーシップで実施		運営費交付金		計3名
		18年度 核融合研での若手研究者海外派遣	18年度		国際交流委員会派遣小委員会での所長の寄付金による派遣者を決定し、渡航費用を援助している。	申請期限を渡航日より1ヶ月半前とし、柔軟に対応している。	自助努力	寄付金		計7名
		18年度 アジア冬の学校(総研大)	18年度		総合研究大学院大学の特定教育研究経費に基づく「総研大アジア冬の学校」の一部として、核融合科学研究所で開催。	この教育講座には、中国、韓国、バングラデッシュ、インド、ドイツの5カ国からの13名を含む29名の参加があり、シミュレーション等について講義・演習が行われた。		総研大経費	19.2.27～3.2	計29名 国内13名 国外16名(5ヶ国)
		18年度 日韓セミナー	18年度		プラズマ物理及び核融合研究分野の日韓の若手研究者に対して、レクチャー及び若手研究者の発表に対して指導を行う。	日韓の研究者相互の交流をはじめとした後の連携・協力体制を若い段階から形成する。		運営費交付金、科学研究費補助金	18.8.31～9.3	計49名 国内33名 国外16名(2ヶ国)
		18年度 機構長裁量経費(若手研究者育成)	18年度		2名が採択され海外派遣を伴う共同研究を実施した。	機構長のリーダーシップで実施		運営費交付金		計2名
基生研		第10回バイオサイエンストレーニングコース	17年度		所内の5研究室がそれぞれの得意とする最新技法を5日間のコースでトレーニングした。参加者33名(内2名は海外から)。	国内の若手研究者、大学院生のための最新技法のトレーニングの場としては20年におよぶ開催で定評があった。		運営費交付金	17.6.27～7.1	計33名 国内13名 国外2名(1ヶ国)
		第1回国際プラクティカルコース	18年度		従来のコースをアジア中心に国際化し、約10名の受講者に10日間にわたって小型魚雷での最新研究技法をトレーニングした。	中国、韓国、台湾、タイ、香港など東アジア諸国の大学院生を主な対象とし、将来的研究ネットワーク形成も期待する。		運営費交付金	19.1.15～24	計10名 国内3名 国外7名(3ヶ国)
生理研		日米科学技術協力事業「脳分野」における若手研究者交流支援	16年度～		「共同研究者派遣」を若手研究者のための制度と位置づけ、毎年3名程度の若手研究者をアメリカの諸大学・研究施設に数ヶ月間派遣している。		運営費交付金(特別教育研究経費)、日本学術振興会		毎年3名程度	
分子研		総研大アジア冬の学校	17年度		総研大生及びアジア諸国の学生・若手研究者を対象として、分子科学の一端で活躍している研究者を招聘してセミナーを開催。	講義・質疑応答全て英語で行い、また講演内容は分子ダイナミクスに焦点を絞り、集中的かつ深く講義内容が理解できるようにした。また、学生・若手研究者が今後世界レベルで研究競争するための一歩のきっかけを与えることもできた。参加者のアンケートによると、ほぼ全員が、講師・セミナー内容に深い感銘を受けていた。	分子ダイナミクス	総研大	18.2.20～22	計58名 国内45名 国外13名(3ヶ国)
		アジアコア冬の学校	18年度		JSPSアジアコアプログラム提供「2006 Sino-Japan Symposium on Green Chemical Synthesis」シンポジウムを中心とする国際ネットワーク形成。	シンポジウムは1日、12演題、3日間の交流、討論など。	環境調和、化学合成、触媒	日本学術振興会	18.10.29～31	計123名 国内30名 国外93名(4ヶ国)
		JSPSアジア研究教育拠点事業	18年度		アジアコア冬の学校へ助手を派遣し、国際交流を通じた人材育成を行っている。また、韓国、台湾をはじめとする外国への研究機関、国際会議へも積極的に大学院生を派遣している。	超高磁場NMR装置の活用を軸とした、日韓の分子科学の学術交流のために韓国高等科学技術院(KAIST)等との交流も通じてアジアの研究教育のネットワーク構築も目指している。	NMR、構造生物学、タンパク質	日本学術振興会	18.7.31 18.10.25	計10名派遣